

岡山県立記録資料館だより

第17号

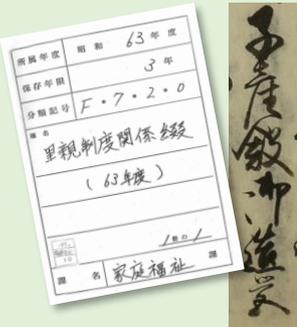
令和3年9月

令和3年度企画展 子どもへのまなざし



<主な展示資料>

【写真】岡山孤児院女子部塾舎食堂（明治30後期）、三木知事を囲む園児（昭和39年）【公文書】里親制度関係綴（昭和63年）【古文書】子産館設立建議書一部（明治2年）など



◆ 令和3年度企画展 ◆

「子どもへのまなざし」

令和3年10月19日(火)～12月5日(日)

※ 11月20日(土)からは一部複製資料

岡山県立記録資料館1階展示コーナー

入館無料

◆ 記念講演会 ◆

「子どもを育む－歴史のなかで考える」

日時 令和3年10月24日(日)

13:30～15:00

きらめきプラザ401会議室

講師 沢山美果子 氏（岡山大学客員研究員）

定員 50名程度

（申込要、先着順、参加無料）

*9月24日(金)から申込み受付

その他関連行事については
当館Webサイトをご覧ください。

子どもたちの笑顔や笑い声は、私たちや地域を明るく元気にしてくれます。いつの時代も、家族だけでなく周りの人々が一緒になって、子どもを守り、育んできました。

令和3年度の企画展では、岡山県子ども家庭課と岡山県児童相談所との共催企画として、十月の里親月間にあわせて「子どもへのまなざし」をテーマに開催します。里親制度は、様々な事情で家族と生活できない子どもたちを愛情深い家庭環境で養育することを目的とした子どものための制度です。

展示内容は、近世では家族や地域での出産・育児にまつわる記録を、近代では備前・備中・美作地域の孤児院について、そこでの子どもの暮らしや地域と行政の関わりを古文書等で紹介します。また、現代では昭和二十二年の児童福祉法制定以後、岡山県が里親制度をどのように実施し、普及啓発してきたなどを公文書や写真で見えます。

展示とおして、子どもが健やかに育つために先人たちがどのような取り組みを行ってきたのか、子どもを取り巻く家庭、地域や社会のまなざしと制度の変遷を振り返ります。

(杉山)

寄稿

令和二年度市町村文書保存研修会

「一点ものの持つ価値」を聞いて

西粟倉村役場総務企画課 大室裕史

令和三年二月十二日に開催された文書保存研修会「一点ものの持つ価値」に参加しました。

長野県安曇野市文書館の平沢重人館長の講演は、かなり熱のこもったもので、資料の保存についての館長の姿勢がうかがえるものでした。

一点ものの資料は一度失われると二度と復元することはできず、大きな価

値が失われる。このことを複数の実例を挙げてご説明いただきました。

特に大正七年度の小学校資料の例には大きな衝撃を受けました。当時大流行していたスペイン風邪による小学校での欠席者数等が記載されたものでしたが、現存するスペイン風邪の資料はその多くが新聞記事で、その根拠資料の多くが現在亡失しており、上記の資料は当時の状況を伝える貴重なものであるとのことでした。

私が衝撃を受けたのは、この資料の保存年限が五年であったということですが。本来なら保存期間満了後廃棄されるべきであったものが、たまたま廃棄を免れたために現在まで残されたこととなります。

文書管理事務担当者として背筋が寒くなる思いがしました。廃棄文書の中には実は歴史的資料として価値があるものが紛れていたかも知れない。そう思うと、改めて公文書管理の重要性について考えさせられた次第です。

現実的には保存できる文書は有限であり、また、そのためのリソースが常に潤沢にあるというわけではありません。いかにして貴重（になるかもしれない）資料を選別し残していくか、常に研鑽が必要であると感じました。



◆◆ 記録資料館から ◆◆

コロナ禍の中での開催となった本研修会ですが、市町村の文書管理担当課や図書館、博物館など幅広い分野から十七名の参加をいただき、講演後は講師の平沢館長を交え、講話の感想や、日々の業務に見つけた課題など、活発に意見を交換しました。

講演内容については、「業務に追われ、一つひとつにきちんと目を通していかない郷土資料も多いが、もう一度見直してみたい」「昔を知る人もまた一点ものであり、資料だけでなくその方たちの知識も残していく必要性を感じた」などの声をいただきました。

私たち職員も、さまざまな出来事の記録や記憶が、わが県の歴史を形作る貴重な資料になるということ、また、「残す」「伝える」「知る」「活用する」というつながりの大切さを改めて感じました。

なお、県では、市町村文書担当課だけでなく、県の文書管理担当職員や、新採用職員に対しても文書管理と保存についての研修を実施しています。

令和2年度、3年度については、コロナウイルス感染拡大防止のため、一部はオンライン掲示板を利用した自由参加型の紙上研修となりましたが、文書管理の意義を全職員が知る良い機会になったのではないのでしょうか。

今後は、デジタル化時代の文書管理という新しい課題も出てくるでしょうが、各公文書館や自治体と情報を共有しながら取り組んでいきたいと考えています。

(谷口)



所蔵資料展の記録

◆ 第八十回

「まぼろしの百万都市」

～60年後のいま、岡山県南広域

都市構想をふりかえる～

令和三年三月十六日～五月二十九日

主な展示資料

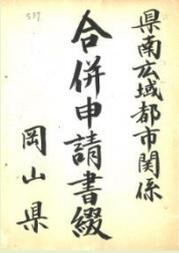
- ・岡山県南広域都市合併基本構想試案
- ・県南広域都市建設関係合併申請書綴
- ・合併協定事項を決定
- ・県庁にPR看板を設置



◀県庁にPR看板設置
▼合併協定事項を決定 いずれも S37(1962)



◀合併申請書綴 S37(1962)



◆ 第八十一回

「選りすぐりの新公開」

令和三年六月二十二日～八月二十一日

(複製展示 九月十四日～十月十六日)

主な展示資料

- ・岡山県湾岸危機対策本部の設置
- ・平成二年九月台風第十九号災害誌
- ・岡山県観光協会パンフレット
- ・青木武平太勤方書留帳



◀台風19号被災地知事視察 H2(1990)
▼湾岸危機対策本部設置 H3(1991)



◆ 第八十二回(予定)

「岡山県150年記念」

『誕生、岡山県!!そして100年目』

令和三年十二月七日～四年二月五日

主な展示資料

- ・岡山県政百年記念祝典の開催
- ・岡山藩の往来手形
- ・文明開化を描く引札
- ・岡山県管内図



◀県政百年記念祝典開催 S46(1971)
▼岡山藩の往来手形 M3(1870)



▲岡山県管内図 M12(1879)
▶文明開化を描く引札 (明治時代)

記録資料館の活動

■ 保存年限経過文書引継

当館の重要な役割のひとつは、県の記録を伝える重要な公文書、古文書等を収集、整理、保存することです。

このうち、公文書については、保存年限経過による廃棄公文書の中から、「歴史的」「学術的」「行政的」に価値のあるものを選別・収集しています。

令和二年度は県の知事部局・教育委員会から、約三千五百冊の公文書を収集しました。

今年も、八月四日の本庁での収集作業をはじめ、県民局、地域事務所等を回り、現在及び将来の県民に役立てていただけるよう、貴重な知的資源の収集に力を入れていきます。(谷口)



R3.8 県本庁 保存年限経過文書の選別・収集

コロナ禍により活動が制限される中、工夫しながらさまざまな取組にチャレンジしてきた1年を、写真で振り返ります。



▲ R2.11.1 企画展記念講演会「岡山の東照宮祭り」



▲ R2.11.20 岡山商科大学博物館学外実習



▲ R3.4.9 古賀稔彦さん追悼 玄関ロビー展示



▲ R3.4.13 所蔵資料展「まぼろしの百万都市」放送



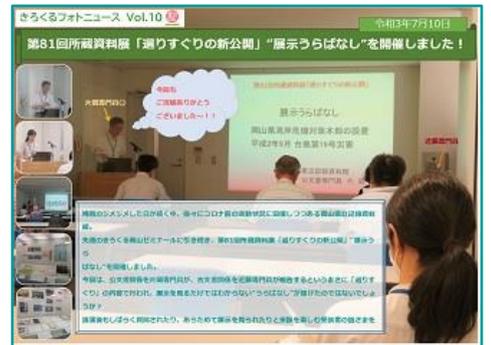
▲ R3.4.21 延岡市来館「日向国延岡城下絵図」撮影



▲ R3.4.24 岡山大安寺中等教育学校メディア部来館



▲ R3.5.13~6.20 緊急事態宣言に伴う臨時休館中の活動



▲ R3.7.10 所蔵資料展「選りすぐりの新公開」うらばなし

きろくる？ Okayama Prefectural Archives

岡山県立記録資料館だより 第17号

発行日 令和3年(2021)9月7日

編集発行



岡山県立記録資料館

Okayama Prefectural Archives

〒700-0807

岡山県岡山市北区南方 2-13-1

TEL 086-222-7838

FAX 086-222-7842

<https://archives.pref.okayama.jp/>

★17年目もどうぞよろしくお願いいたします。



開館時間

火曜日～日曜日 9:00～17:00

休館日

■月曜日、国民の祝日

(月曜日が祝日の場合はその翌日も)

■年末年始

■特別整理期間

※毎月の休館日は当館 web サイトをご覧ください。

岡山県立記録資料館

検索